

## かんえいしよき こうじょ おも で 官営初期の工女の思い出

よこたえい めいじ ねん か かいそうろく とみおかにつき ほん  
横田英が 1907 (明治40) 年に書いた回想録が、「富岡日記」という本になっており、当時の工女たちのいきいきとした様子を知ることができます。

### とみおかせいしじょう とうちやく おどろ 富岡製糸場に到着したときの驚き

いちどうおく ひとびと つきそ  
「一同送りの人々に付添われまして

とみおかせいしじょう ごもんぜん  
富岡製糸場の御門前にまいりましたときは、

じつ ゆめ おも ほどおどろ  
実に夢かと思えます程驚きました。

うま れんがづく たてもの  
生れまして煉瓦造りの建物など、

にしきえぐらい み  
まれに錦絵位で見えるばかり、

それを目前に見ますることでありますから、無理もなき事かと存じます。」



富岡市イメージキャラクター  
お富ちゃん

※展示ケース内「富岡日記」にて、実際の文章（写し）がご覧いただけます。

### きしゆくしや ひ たま 寄宿舎に火の玉が！

「ある夜私共の部屋の和田さん、金井さん、春日さん、私と

やはり南の部屋の東のはずれの二階部屋に遊びに行きました。

帰りは夜が更けまして、廊下のあかりも消えてしまい、

四人ひとかたまりに、こわいこわいと心の中で思っておりますと、

中の階段のきわの部屋から火が見えました。

その部屋は長々あき部屋でありましたから驚きましたが、

申したら皆恐ろしがるだろうと存じまして無言で通り過ぎまして、

その次の階段を下りました時、春日さんが、

今の火は何でしょうとふるえ声で申されましたので、

一同きやっと申しました。（中 略）銘々と見たところが違います。

私はやぶれ障子から見えました。

後に三人は階段のすみ、またははしご段の通り、

その翌朝早々まいってみますと障子はやぶれておりません。

これは只今でも不思議と思っております。

その他いろいろな事を申す人がありますので、

実に夜分恐ろしくて困りました。」 参考図書／赤煉瓦物語（あさを社）



## A cartoon illustration of a woman with dark hair in a bun, wearing a blue kimono with a red collar. She is holding a long, purple, wavy cloth. There are four yellow four-pointed stars around her. A small blue tear is on her right cheek. The Japanese character 'て、' (te,) is written in the top left corner.